



虎屋京都店

設計:内藤廣建築設計事務所

時間の中に佇むこと

— 蘆田暢人 | Masato Ashida —

京都の中心に広大な緑の空間としてある京都御所。その境界は優に20mを超える巨木で囲まれ、さらにその内側には、主の不在を表象するかのように静かにそびえる塀が、禁裏を包み隠している。その周囲に広がる緑あふれる広大な空間は、主ありし日の華やかな姿とは全く異なる場所として存在する。強い象徴性を持っていた“ハレ”の空間は、今や市民の憩いの場ともいえる“ケ”の空間となっている。現在そこに流れている時間は緩やかで安らかだ。時と共に、同じ名を持つひとつの場所ですえ時間の質と流れは変わる。

その京都御所の西端を南北に貫く烏丸通りから西にやや入ったところに、虎屋は数世紀にわたり店を構えてきた。その歴史はおおよそ5世紀にもなる。江戸時代には、武家や貴族の屋敷が軒を連ね、賑やかであったろうこの一帯は、今や閑静な住宅地となっている。当時は金箔瓦の軒先が並んでいたといわれる一条通りは、かろうじて数件の町家を残すものの、無個性な風景が広がるばかりだ。

ここで約500年もの間ずっと和菓子をつくり続けてきた虎屋も、その長い歴史の中で、さまざまなかたちに姿を変え、今に至っている。

この場所が経てきた時の流れの中で、新しく生まれる時間の質がどうあるべきか、そして、今広がる無個性なまち並みの中で、この建物がどのような表情をまちに向けるべきか、それがこのプロジェクトの避けられない課題であった。

一世代前の建物は、小さな菓寮を併設する工場であった。工場が京都の郊外に移転することに伴い、この発祥の地に、これまで営んできた和菓子によるもてなしに加え、新たに文化の発信の拠点となるような建物が求められた。前の建物から引き継いだ生菓子をつくる御用場と菓寮を設けること、展示や講演などの文化活動を行うスペースを設けることが条件として与えられた。それらの条件に加え、ここには虎屋と共に時を重ねてきた庭と、古くから伝わる土蔵や稲荷社があった。

我々の提案は、まず庭に大きな屋根を架けることであった。屋根を支える柱や壁を極力設けず抜けを取ることで、前面の一条通りと中庭を緩やかにつなぎ、その間に新たな場所をつくり出す。そこに流れ続けている持続的な時間と訪れる人々の瞬間的な時間が交錯し、心地良いひとときが生まれるような場所をつくることを目指した。庭には水盤やシンボルツリーとしてのハクバイなど最小限の要素を、既存の樹木や草花の間に付け加えた。大きな屋根をどのような形状と仕上げにするか。そのことについてはほぼ選択肢はなかったといえる。京都では、この建物の計画が始まった頃に新しい景観条例が定められ、外装材に関する規制が厳しくなった。御所の近傍に位置するこの敷地では、当然のことながら比較的厳しい部類の制限が課せられる。条例の基準どおりの切妻型の瓦屋根としたことで、この大きな屋根は、その可能性を室内側の天井面の表情に託すこととなった。結果として、この選択がこの建物の在り方を決めたといえる。まちに流れる時間を受け止めながら慎ましくやかに付むこと。そして、まちの喧噪から離れ、庭の草木や水に囲まれた屋根の下に、ここでしか感じることでできない時間を生み出すこと。

まちに対しては、一条通りに接するギャラリーを除き、控えめながらも上質な風合いを出すために、木の羽目板張りとした。ギャラリーは虎屋の新たな試みを象徴する部分であり、烏丸通りからのアイストップとして建物の顔となる部分である。ここには他の部分と異なる表情を持たせるべきだと考え、白の中に薄いピンクがにじむ和菓子のようなタイルを特注した。斜めに傾け、コーナーを曲面とした壁形状になめらかに合わせることができるよう、半分に割ったサイズのものを加えてランダムに張った。柔らかな光沢を持つこのタイルは、季節や天候によって微妙にその見え方が変化し、刻の移ろいに呼応する。この壁は時がたっても、朽ちることも色あせることもなく、変わらない姿のままそうあり続けるであろう。

あした・まさと——内藤廣建築設計事務所設計室長 / 1975年生まれ。2001年、京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。同年、内藤廣建築設計事務所。主な担当作品：鳥根県芸術文化センター[2005]、虎屋京都店[2009]など。



2



3



4



5

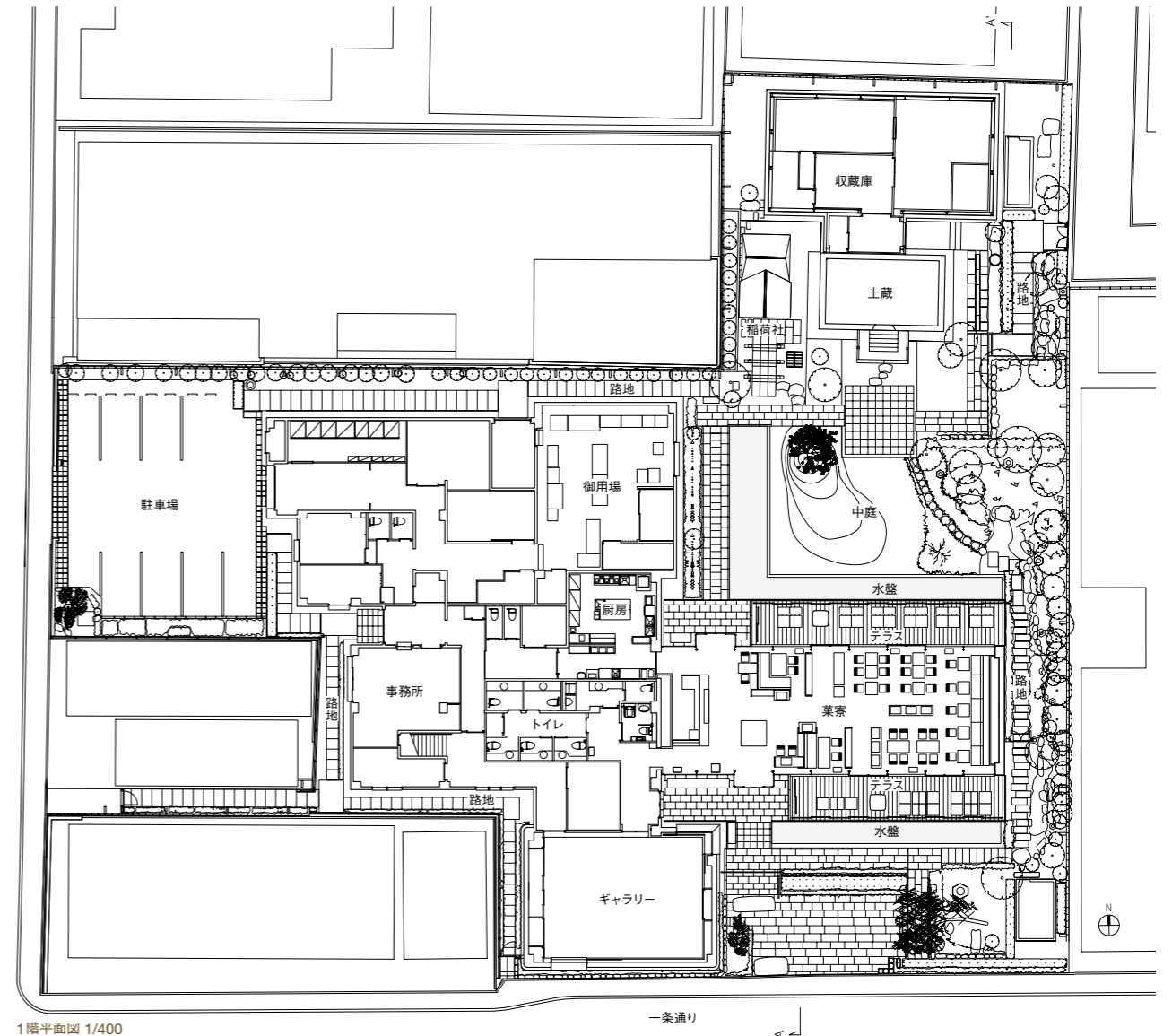


6

1——正面外観：左はギャラリー、奥は葉寮 | 2——葉寮内観 | 3——葉寮から中庭を見る | 4——ギャラリー外観 | 5——タイルディテール | 6——葉寮に面した東側の路地 | 7——とらや京都一条店外観



A-A'断面図 1/400



1階平面図 1/400

建築概要

名称：虎屋京都店 | 所在地：京都府京都市上京区一条通烏丸西入 | 敷地面積：2,120.43㎡ | 建築面積：931.34㎡ | 延床面積：1,145.60㎡ | 規模：地上2階 | 構造：RC造、一部S造、木造 | 工期：2007.11-2009.4 | 設計：内藤廣建築設計事務所 | 施工：鹿島建設
 ●INAX使用商品
 虎屋京都店 | 葉寮東面外壁、ギャラリー外壁 | タイル：COM-155Z / R / 特注色(形状は2種類) || とらや京都一条店 | 東面外壁 | タイル：COM-155Z / R / 特注色



7